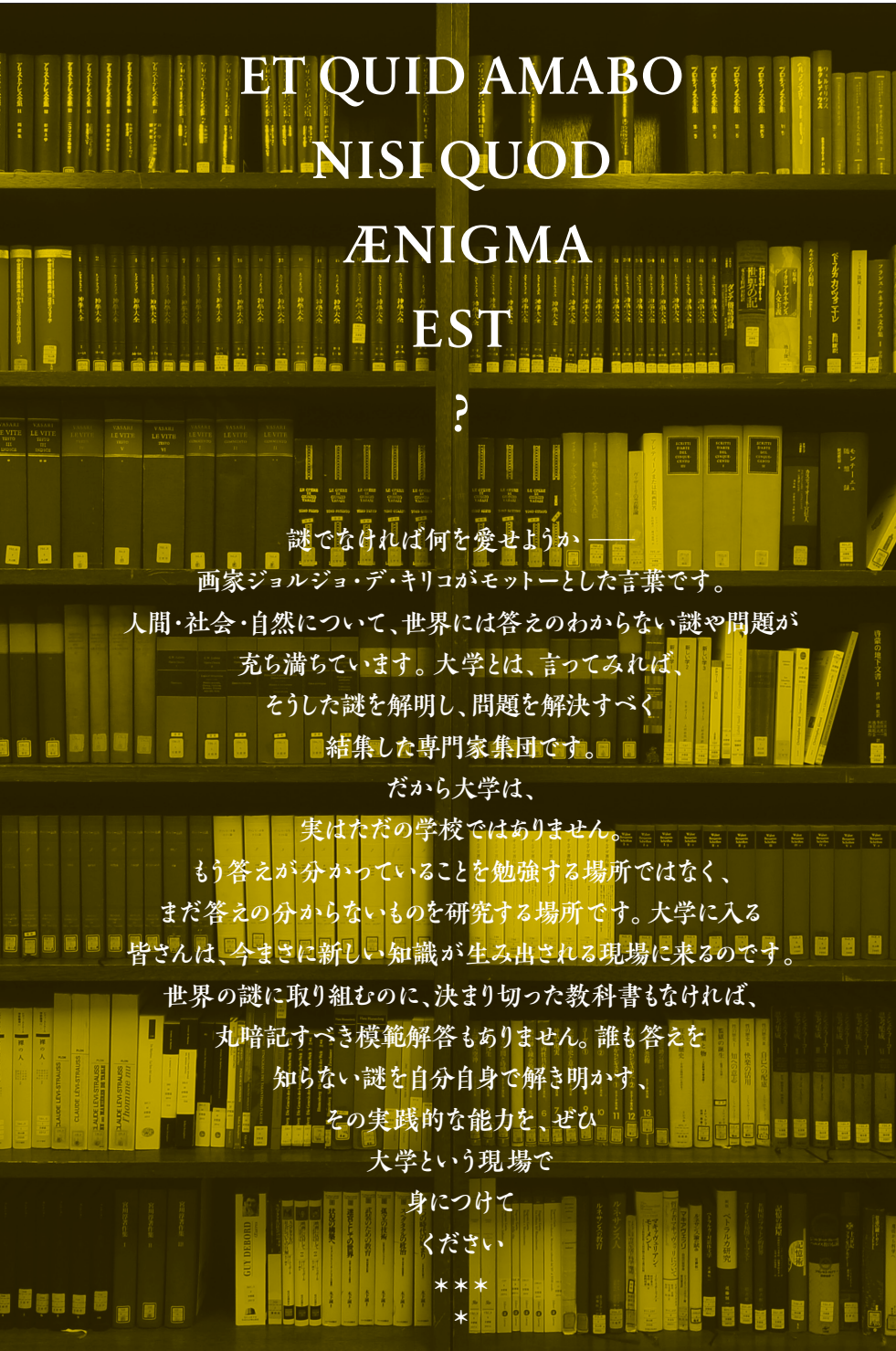




岡山大学 文学部

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1番1号
お問合せ窓口：岡山大学文学部
Tel.086-251-7345 (代) Fax.086-251-7350
編 集：岡山大学文学部広報・交流委員会

<http://www.let.okayama-u.ac.jp/>

岡山大学文学部

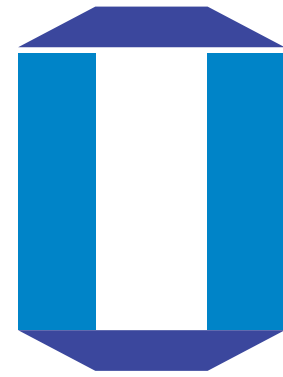
検索

岡山大学

文学部

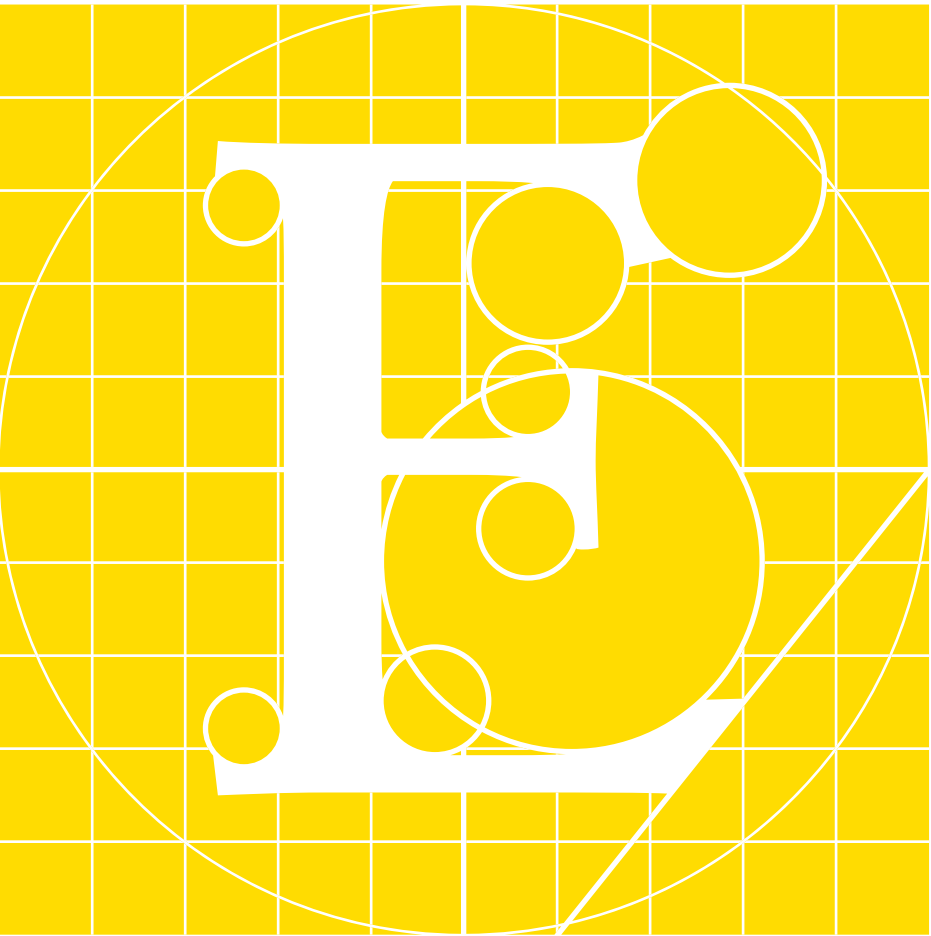
OKAYAMA UNIVERSITY
FACULTY OF LETTERS

- 哲学・倫理学分野
- 芸術学・美術史分野
- 地理学・社会学・文化人類学・社会文化学分野
- 心理学・社会心理学・臨床心理学分野
- 歴史学・考古学分野
- 言語学・現代日本語学分野
- 日本語・日本文学分野
- 外国語・外国文学分野



OKAYAMA
UNIVERSITY

世界への扉を開く



ET QUID
AMABO NISI
QUOD
ÆNIGMA
EST ?

謎でなければ

何を愛せようか

Contents

文学部とは	02
分野・領域	04
カリキュラム	14
プログラム (外国語習得・留学 / 学芸員課程)	16
卒業論文	18
進路 / 免許・資格	20
学問とは	22



2019年度 学部案内



人間を見つめて、知を立ち上げる



岡山大学 文学部 人文学科



人文学の見地から
すれば、人間の
記録が古びる
ことなどない。

エルヴィン・パノフスキー

文学部とは

* 文 *
* * *

のつく語を思い浮かべてみてください。

文様からはじまって、文字、文書、文芸、文物、文事、文化、はては文明まで……。 「文」とは、ことばの力によって創造された人間の知恵そのもののことです。

「文」の学部たる文学部とは、ことばを獲得した人類が生み出したすべて——思想・芸術・社会・心理・歴史・言語・文学——を総合的に探究する場所にほかなりません。

岡山大学文学部は、1900年設立の旧制第六高等学校文科を承けて発足してから長きにわたり、「文」についての高度な知を培ってきました。それを継承し、新たにことばの力を発揮していくのは、皆さんです。

文学部生から



稲毛由加子

香川県、大手前高松高等学校出身。
執筆時は、文学部人文学科3年次生として、
言語文化学専修コース(現・日本文学領域)に
所属。

岡山大学の文学部には数々の分野が集まっていますが、私はその中でも日本の近・現代文学を専攻しています。学校の授業で「羅生門」や「こころ」などの作品に触れたことがある人も多いのではないのでしょうか。しかし、教科としての国語が先生の言葉に従って物語を読んでいくのに対し、大学ではより詳細に作品と向き合い、自分なりの読み方を見つける必要があります。様々な分野の文献に目を通して情報を集め、作品に照らし合わせることで、物語の中に込められた作者の意図や工夫を見出し、作品の新たな魅力を開拓していくのです。もちろん一筋縄にいかない場面もありますが、今まで気が付かなかった解釈の可能性に行き着いた時には、なんとも言えない達成感があります。

また、研究の過程で文学作品を読む機会が増えたと、自身の興味の幅も大きくなっていきます。積極的に文学館や博物館に足を運んだり、旅行の際に文豪ゆかりの地を訪れたり、それまでは知らなかった楽しみ方に気づくことが出来ました。

文学の研究、そしてそれを通して得た知識や経験は、私の毎日をより豊かにしてくれました。文学部で学べる学問はすべて、私たちに充実をもたらしてくれるものだと思います。



瀬崎景己

岡山県、創志学園高等学校出身。
執筆時は、文学部人文学科4年次生として、
哲学芸術学専修コース(現・哲学領域)に所属。
現在は、銘建工業株式会社に勤務。

「本を読んでばかりの地味な学部」を文学部だと思っていませんか? 本との格闘は文学部の醍醐味ですが、岡山大学文学部にはその他にも挑戦の機会がたくさんあります。

私は2017年に文学部講演会(「妊娠? 出産? 育児? 女だから? 男でも? 」)の企画に挑戦しました。文学部では一年を通して多くの講演会を開催しており、その内容は最先端の研究紹介、海外の研究者の講演、トークセッションと多岐にわたります。今回は学生企画として事務的な書類の準備、講演者との交渉、広報などほとんどのことを学生たちで行いました。学生同士で話し合いながら企画を進めることで自分の意見が相対化され、より有意義な企画を立案できました。

とはいえ、みなさんが一番心配なのは就職ではないでしょうか? 文学部だから就職に不利ということはまずありません。むしろ、どんな会社にも文系の人は必要ですから、あらゆる業界に挑戦できます。私も今は「フッサールと画像」のテーマで卒論と格闘中ですが来春からは林産業の世界に飛び込みます。文学部で培ってきた言語運用力や事象から意味を読み取る力がどのように活かせるか楽しみです!

みなさんは文学部でどんなことに挑戦してみたいですか?



山田彩加

岡山県立岡山芳泉高等学校出身。
執筆時は、文学部人文学科3年次生として、
行動科学専修コース(現・社会学領域)に所属。

文学部にはさまざまな学問分野があるので、自分の学びたいこと、興味のあることに合わせて選択することができます。自分が何に興味があるのか分からない1回生のときに、幅広い学問分野を学べることは、私にとってとても魅力的でした。また、各専門領域に分かれた後も、自分の領域の授業だけでなく、興味のある授業を幅広く選択してとることができます。

私はその中でも社会学を専攻しています。座学だけでなく、学外に調査に出ていき、インタビュー調査や質問紙調査などのフィールドワークを通して、卒業論文に向けて研究を進めています。社会学ゼミでは少人数体制で、学年を超えて考えを共有したり、深め合ったりしていくことで、研究がより良いものになるよう切磋琢磨しています。

さらに、文学部の学生として、自分たちで企画、運営する学生企画もすることができ、文学部は学生が主体的に学ぶ姿勢を尊重してくれていると感じます。私は、友人と一緒に身近なマイノリティーについて学ぶ機会を設けています。

また、授業のあいまには、部活動や資格取得、スキル向上のための自主的な勉強時間が比較的多く確保できることも、文学部の魅力の一つだと思います。



大谷弦

京都市立堀川高等学校出身。
執筆時は、文学部人文学科2年次生として、
美術史領域に所属。

大学での学びは、高校までのそれと何が違うのでしょうか。「高校では教科書に従って知識の暗記に努める。大学では知識を疑い、新たな知を発見する」とよく言われますが、高校でも教科書の知識を疑うことはできるし、図書室での読書によって研究の最先端を知ることできます。高校と大学で、学びの違いは本当にあるのでしょうか。

学びは主体的なものです。高校生であれ大学生であれ、全ての学びは「知りたい」という知的欲求を抱いた時にスタートします。「知りたい」と思わなければ学びは始まりません。大学、とりわけ文学部は、様々な「知りたい」に応えてくれる楽しいところです。ギリシア哲学から地理学まで、人間に関わる幅広い学びが営まれています。

脳に汗して知る喜びは、楽しくも苦しい学びからしか得られません。「知りたい」と投げかけるのも自分、答えを探すのも自分からです。しかし一人ではありません。先生や先輩が学びを支えてくれます。思い返してみると、僕は高校時代、このような学びをしていませんでした。やはり大学と高校では違うのかも。あなたは どう思いますか?

どの学派であってもそれぞれに、
他の学派にはない注目

＊＊すべきものを＊＊

＊もっている。＊

＊＊＊＊＊

＊＊＊

＊

ジョヴァンニ・ピコ・デッラ・ミランドラ

分野・領域

岡山大学文学部人文学科で学べる、

8の分野

23の領域

哲学・倫理学分野

哲学領域

倫理学領域

芸術学・美術史分野

芸術学領域

美術史領域

地理学・社会学

文化人類学・社会文化学分野

地理学領域

社会学領域

文化人類学領域

社会文化学領域

心理学・社会心理学・

臨床心理学分野

心理学領域

社会心理学領域

臨床心理学領域

歴史学・考古学分野

日本史学領域

東洋史学領域

西洋史学領域

考古学領域

言語学・現代日本語学分野

言語学領域

現代日本語学領域

日本語・日本文学分野

日本語学領域

日本文学領域

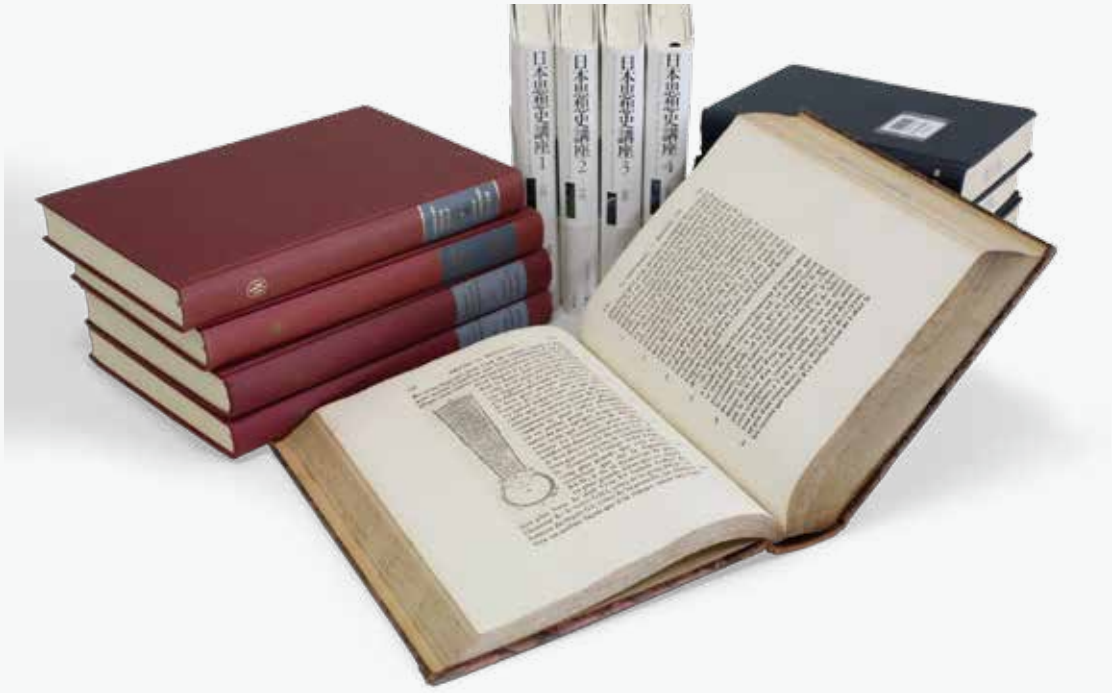
外国語・外国文学分野

中国言語文化学領域

英米言語文化学領域

フランス言語文化学領域

ドイツ言語文化学領域



哲学 | 倫理学分野

哲学領域

哲学とは何か ― この問い自体が哲学です。古代ギリシアで哲学の営みを打ち立てたソクラテスは、まさに「～とは何か」を問い続けました。私たちがふだん当たり前に思っている人間と世界についての様々な観念を、言葉と論理を駆使して原理的に考え直すのが、哲学なのです。哲学領域では、人間の知そのものに関わる理論哲学と、人間の行為や活動、組織や制度に関わる社会哲学を両軸に、倫理学領域と連携しながら、哲学します。

倫理学領域

生老病死、貧困、離別、看取り、哀悼……現代社会がかつてとどれほど異なっているとしても、人間が生きていくうえで直面する困難は、時代を超え、地域を跨いで、相通じるものがあります。倫理学領域では、哲学領域と連携しながら、たとえば人々の死生観、病・貧困・老齢への向き合いを、日本の儒教・仏教・神道思想や西洋のギリシア＝ローマ倫理思想・キリスト教思想などから、広く思想史的に考察していきます。



芸術学 | 美術史分野

芸術学領域

芸術学領域では、「創造」を考察する(狭義の)芸術学と、「受容」を分析する美学を二本柱にして、「作品」を調査する美術史と連携しながら、芸術を研究します。絵画・音楽・演劇・建築・服飾……芸術と呼ぶうるものを生み出さなかった文明は、いまだかつてありません。人間が字を書く前に絵を描き、話す前に歌ったとすれば、芸術の謎は人類文明誕生の謎にまで通じているでしょう。装飾・遊戯・旅行・風景なども芸術学の対象です。

美術史領域

美術史領域では、日本や西洋の芸術作品を、歴史を通して理解していきます。仏像や浮世絵にしても、油彩画や写真にしても、ただ綺麗というだけのものではなく、歴史のなかで人々の信念と欲望を担って存在してきました。社会・経済・政治までも動かすその芸術の仕掛けを、芸術学・美学と連携しながら、丹念な調査と検討によって解明します。美学・美術史・芸術学の総合的な視点から研究できるのは、岡山大学文学部の強みです。



地理学 | 社会学 | 文化人類学 | 社会文化学分野

❖ 地理学領域 ❖

地理学の基本は「見て、歩いて、そして考える」ことに集約されます。人間の行動が地域・場所とどう関係しているのか、が地理学の中心課題です。授業では、近隣地域を対象にしたフィールドワークに出かけ、「見て、歩いて、そして考える」ことを実践します。なかでも産業地域や都市の変動、農山漁村の現状、地域の文化景観の変容など、現代の地域をめぐる特徴や地域差を考える研究、地域的な課題の解決に迫る研究を重視しています。

❖ 社会学領域 ❖

一言でいえば、社会学は人々の関係性や、社会の成り立ち・しくみを明らかにする学問です。その入口は、国際結婚や子育て、まちづくり活動、農山漁村の暮らし、死生観、同性カップル、アニメやファッションなど、実に多様です。個人的な悩みや課題も、実は社会とつながっていること。それを、インタビューやフィールドワーク、質問紙調査などを通して明らかにし、私たちの暮らす社会を理解していくのが、社会学なのです。

❖ 文化人類学領域 ❖

文化人類学では、地球上の様々な人々の文化・社会を比較し、研究します。私たちがテレビや旅行などを通じて接する「異文化」は、ときに奇妙で不可解に見えます。挨拶から仕事の仕方、結婚のルールや子供の育て方まで、たくさんの違いがありそうです。でも、それらが「奇妙」なのは、私たちが自分の「当たり前」にこだわっているからかもしれません。他者の視点に立って「当たり前」を問い直すと、人間の多様性が見えてきます。

❖ 社会文化学領域 ❖

社会文化学では、CM・漫画・映画・SNSなど身近な素材の中の、他民族・自民族・ジェンダーのイメージ構築を分析します。戦争・植民地化がもたらした国際関係や歴史の諸問題、特に戦争体験・記憶・トラウマの世代間継承を扱い、過去の敵同士が相互理解に至る可能性を考察します。「オーラル・ヒストリー」(聞き取り)の方法論を学び、文書に残りづらい人々の感情や経験が、メディアで表象される仕組みを研究しています。



心理学 | 社会心理学 | 臨床心理学分野

❖ 心理学領域 ❖

心理学領域では、実験や調査を通して、人間が自分を取り巻く環境をどのように認知し、何をどう学習し、思考し、働きかけていくのかについて研究します。機械や装置を用いて心と体の反応を測定したり、心の様子を測定値で表してコンピュータで統計的に解析したりと、心理について実証的に、科学的に研究して、そのメカニズムや法則性を解明していきます。

❖ 社会心理学領域 ❖

社会心理学は、人間の社会的行動に関する心理学的法則を探求します。研究テーマは、自己認知や自己評価、対人認知、社会的推論、感情、対人行動、人間関係、集団、健康と幸福、文化といった広範囲にわたっています。研究では、実験や調査、面接、観察などの多様な方法を駆使して、人間の複雑な社会的行動の解明を目指します。

❖ 臨床心理学領域 ❖

臨床心理学は、心理学や社会心理学など、こころにかかわる学問が蓄積してきた知識を土台にして、病院やクリニック、学校の相談室や児童相談所、お年寄りのための施設や会社のカウンセリングルーム、家庭裁判所や刑務所など、さまざまな人との出会いがある臨床現場で、いつ、だれが、なにを、どのようにすれば、人々の役に立てるかを多彩な視点から研究し、そうした実践ができる人材を育てています。



歴史学 | 考古学分野

🔗 日本史学領域 🔗

日本史学領域では、古文書や典籍といった文字史料の読解方法を修得して、日本という地域の歴史を研究します。岡山大学文学部には、古代・中世・近世・近現代の全時代をカバーする教員が揃っています。授業によっては附属図書館所蔵の実際の古文書を使用したり、また毎年泊まりがけで古文書調査を実施しており、まさに歴史研究の現場で学ぶことができます。

🔗 東洋史学領域 🔗

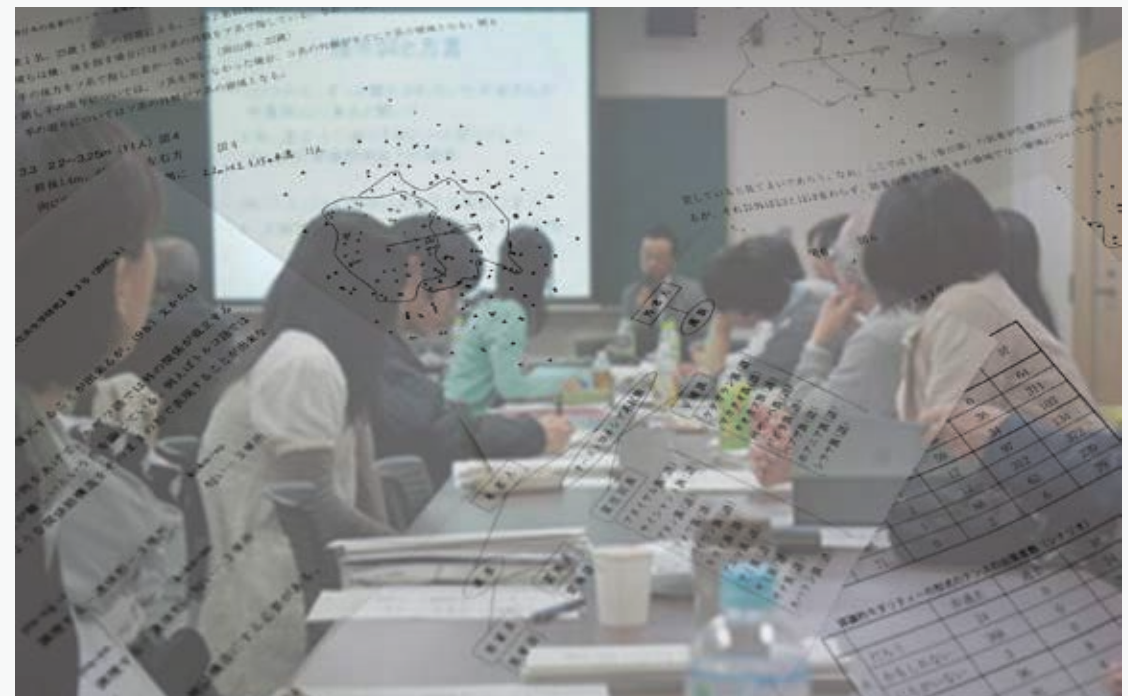
東洋史学領域では、アジア諸地域の歴史を、政治・社会・宗教・文化・経済・国際関係などの多様な視点から研究します。授業では漢語や英語などで書かれた文字史料を読み込んでいきますが、教室から飛び出して自らアジアに出かけることも奨励しており、実際に多くの学生が留学・調査旅行を経験しています。大学院には、中国や東南アジアからの留学生が在籍し、かれらと身近に接することができるのも、東洋史の魅力です。

🔗 西洋史学領域 🔗

西洋史学領域では、ヨーロッパ・アメリカ諸地域の歴史を、政治・社会・宗教・文化といった視点から研究します。歴史学は、断片的に伝わる文献・モノを通して、過去の人間の営みを再構成する学問です。西洋諸語の文献史料を読み解きながら、そこに直接表れてこないミッシング・リンクを見つけ、西洋がどんな歴史をたどったのか、西洋が世界の歴史にどんな影響を与えたのか、解明していきます。

🔗 考古学領域 🔗

考古学は、遺跡の発掘や出土品の分析を通して、過去の社会・文化を明らかにする学問です。岡山大学文学部では、おもに日本列島の遺跡や遺物を対象として、発掘からコンピュータ解析まで、調査研究のための知識と技術を身につけます。海外との比較研究も積極的におこなわれています。休みの時期に実施する泊まり込みの調査では、縄文時代から古墳時代の遺跡を発掘することができます。



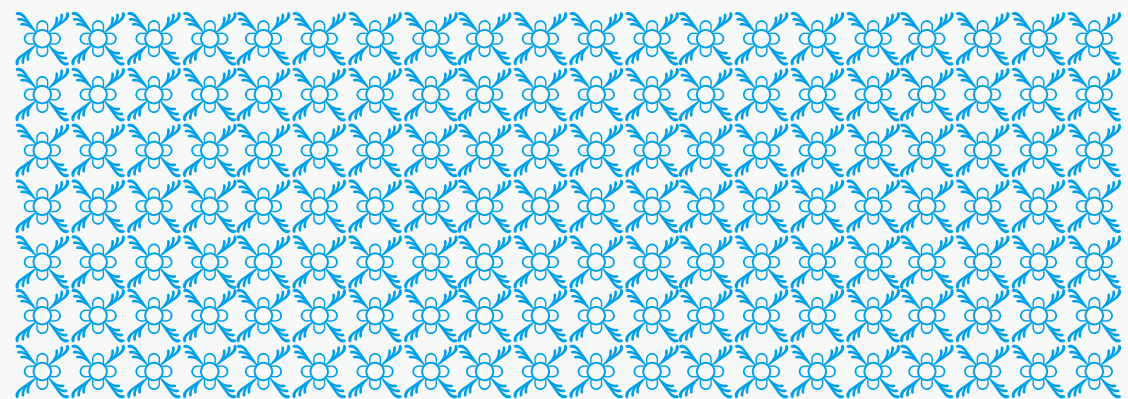
言語学 | 現代日本語学分野

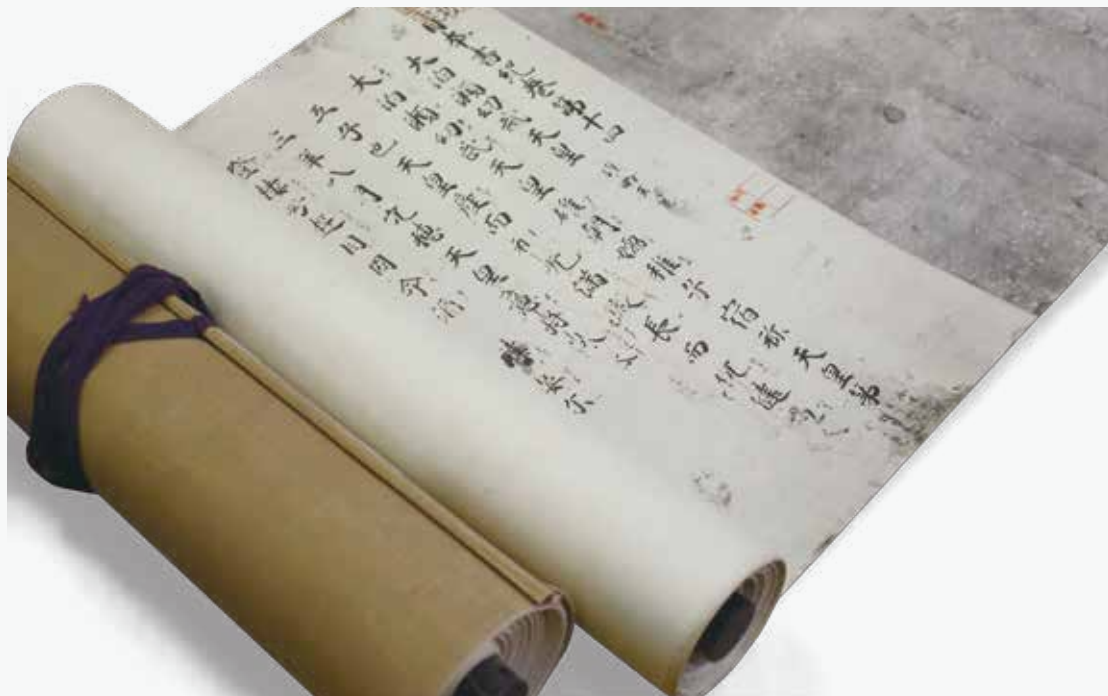
🔗 言語学領域 🔗

世界では6,000もの言語が話されていて、どれも精密なしくみをもっています。何気なく使っているどんな言葉でも、その使い方には理由があり、規則があり、メカニズムがあります。言語学領域では、トルコ語などの西・中央アジア諸言語や、フィリピン諸語などの東南アジア諸言語を中心に、日本語との対照もしながら、言語のしくみを解明します。世界中の言語の下に隠れている規則性や多様性を明らかにするのです。

🔗 現代日本語学領域 🔗

同じ日本語といっても、地域ごとの方言もあれば、世代による話し方の違いもあります。テレビのニュースとケータイ小説のセリフとでは、言葉づかいが変わります。日本語を母語とする人とそうでない人では、日本語の習得方法が異なります。現代日本語学領域では、県内外に足を運んでインタビューやアンケート調査をおこなったり、自然談話の録音資料やデータベースを利用して、現在話されている多様な日本語のしくみを研究します。





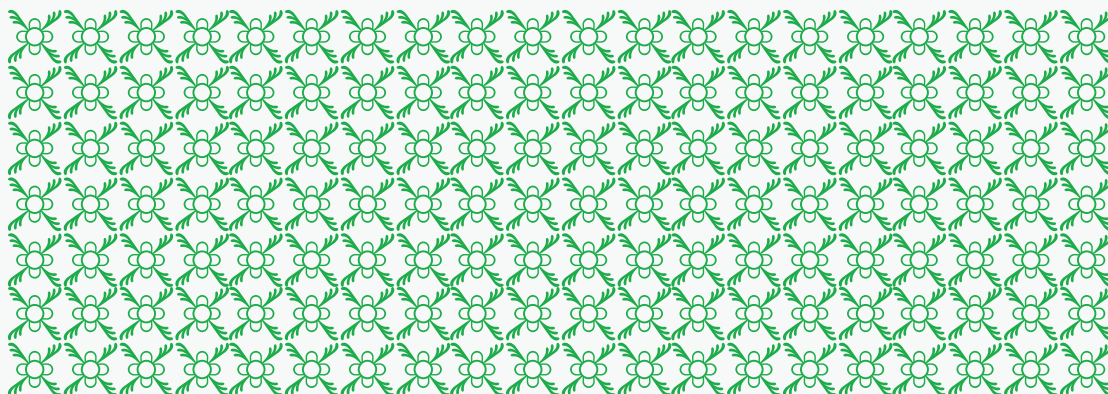
日本語 | 日本文学分野

日本語学領域

日本語学領域では、日本語が古代から現代へとどのように変化してきたのか、その経緯を文献資料や現代語・方言の分析を通して研究します。昔の日本語を知らなくても、今の日本語を話すのに不自由はしません。でも、なぜこんな言い方をするのか、その理由は長い歴史のなかでの言語の変遷にこそあるのです。日本文学・中国文学とも連携しながら、何気なく使っている日本語の奥行きを知ると、日本文化の豊饒な世界に通じるでしょう。

日本文学領域

古代から現代まで、日本は世界に類を見ない独自の文学を発展させてきています。日本文学領域では、和歌、物語、小説など、日本の文学作品に分け入り、それを支える文化・社会・思想にも目配りしながら、理解を深めます。人間はよりよく生きるために言語を通して世界を認識し、文学を生み出してきました。ふだん意識なくとも、文学はたしかに私たちの認識と生活の根幹を形成しているのです。



外国語 | 外国文学分野

中国言語文化学領域

悠久の歴史と伝統を誇る中国。その4,000年にも及ぶ時の流れのなかで、多様で膨大な文化遺産が蓄積されてきました。そのなかでも言語・文学・思想・文化の研究を、中国言語文化学領域ではおこないます。中国語のしくみを理解するとともに、たとえば陶淵明や白樂天らの詩、『三国志演義』や『西遊記』等の小説、現代の小説・演劇・映画・漫画から、アジアにもヨーロッパにも多大な影響を与えてきた中国文化に分け入ります。

英米言語文化学領域

大学で英語を学び、英語圏文学を研究することは、たんに英語を話せる技能・知識を身につけるだけのものではありません。それは、英語のメカニズムを科学的に解明するための理論や方法を学ぶことであり、英米の小説・詩・演劇を成り立たせている構造や理論、文化的・社会的背景、映画やジャズなど他の芸術形式との類似と差異を解明していくことです。もちろん、言語と文化への深い理解は、英語運用能力の向上にも資するでしょう。

フランス言語文化学領域

フランス文化には、人間に対する鋭敏な、ときに辛辣なほどの洞察と、それを言い表すことばの美しさへの特別な感覚が息づいています。フランス言語文化学領域では、ルネサンスから現代までの文学（詩・小説・演劇・エッセー等）と、現代フランス社会におけるフランス人の生活と考え方について学び、さらに映画・BD（漫画）・オペラ・シャンソン・フレンチポップスなどを通して、フランス文化の世界に足を踏み入れます。

ドイツ言語文化学領域

ドイツ文化は、時間と空間の隔たりを超えて、人間・自然に対する深い愛情と洞察を、私たちに直接語りかけてくれます。ドイツ言語文化学領域では、ドイツ語のしくみを理解することはもちろん、ゲーテやシラーからハイネやビューヒナーを経てカフカやエンゲにいたる文学、ニーチェやフロイトの思想、さらにドイツ語圏の音楽・絵画・映画を通じて、ドイツ文化の世界に踏み込んでいくことができます。

★しているのだ。★

ヴィルヘルム・フォン・フンボルト

カリキュラム

14

卒業論文

人生をかたちづくるには、精神に絶えず
多くの違った人生や思想や習慣を
見せ、人間性が不断に変化する
ものであることを味わわせる

＊以上によい教育は＊
＊＊ないと思う。＊＊

＊ ＊ ＊ ＊ ＊
＊ ＊ ＊
＊

ミシェル・ド・モンテーニュ

プログラム

岡山大学文学部では、8分野の専門科目とは別に、実践的な語学習得・資格取得のための専門科目を、「外国語習得・留学プログラム」「学芸員課程プログラム」として用意しています。これらの科目は、他の専門科目と開講時間帯が重ならないように時間割が組まれています。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊
＊ ＊ ＊
＊

外国語習得・留学プログラム

ドイツ語・フランス語・中国語について、「使える外国語を身につける」ことに特化した授業プログラムです。基礎文法から応用会話、時事ニュースの聞き取りから専門文献の読解、さらに幅広い作文までそろっています。教養外国語科目と連携して構成され、ネイティブ・スピーカーの教員が担当する授業もあり、一般的な大学の倍の密度で教育がおこなわれます。

しっかりと取り組めば、2年次からの海外留学も、独検・仏検・DELFDALF・漢語水平考試などの語学検定合格も、夢ではありません。岡山大学文学部では、ドイツのベルリン自由大学とルール大学ボーフム、フランスのボルドー・モンテニュ大学とストラスブール大学、中国の吉林大学をはじめとした各国の大学との交流協定(授業料免除条項を含む)を利用して、短期から長期までの様々な留学ができます。また岡山大学には、アメリカをはじめ世界の44大学との授業料免除の短期留学プログラム(EPOK)や、私費による語学研修プログラムが用意されており、文学部からも毎年多くの学生が留学しています。

海外留学体験記

萬藤里奈「フランスでの経験が私に与えたもの」



愛媛県立松山南高等学校出身。執筆時は、文学部人文学科3年次生として、言語科学専修コース(現・日本語学領域)に所属。

4か月間とは本当に短いものでした。

ボルドー大学では、国も年齢もバラバラな人たちと一緒にフランス語を学んだり、日本語学科の授業にお邪魔してフランス人の学生と共に日本語劇の作成をしたりしました。その中で仲良くなった友人たちと放課後や週末を過ごし、毎日充実していました。また、日本の他大学からの留学生たちと集まって情報交換をし、困難なことがあると助け合うこともありました。

今回の留学を通して、自分からアクションを起こすことへの自信ができました。受け身姿勢でいることが多かった私ですが、授業で発言し、初対面の人と話し、初めての一人旅をする中で、自分が少しでも変わっていくのを実感しました。この自信は就職活動にも活かすことができました。これから社会に出ていく上でも、留学中の新鮮な気持ちを大切に、自信を持って行動していきたいです。

学芸員課程プログラム

博物館や美術館で資料と作品の収集・保管・展示・調査研究をおこなう専門家が、学芸員です。その資格は、所定の授業科目の単位を修得して卒業することで得られます。

岡山大学文学部では、学芸員の資格取得に必要な授業科目を開講するとともに、展示会やトークイベントの開催、ニュースレターの発行などにより、文化遺産を未来に伝えていくという学芸員の重要な職務について、しっかりとした教育をおこなっています。学芸員経験や文化財の実務経験のある教員が多数いるのも強みです。

博物館実習体験記

小松由香莉「博物館の学び」



愛媛県立今治西高等学校出身。執筆時は、文学部人文学科3年次生として、歴史文化学専修コース(現・西洋史学領域)に所属。

学芸員課程では、実践を交えつつ博物館に関する知識を身に付けることができます。その集大成とも言える博物館実習においては、学芸員の方々から直接手ほどきを受けながら実際に館の業務に関わります。

私は今年、岡山市内の美術館にて実習を行いました。文化財や話題の資料を素手で触るなど、バックヤードまで立ち入るのはなかなかできる体験ではありません。雑談の中にも新たな発見があったり、ボランティアスタッフさんと仲良くなったり、とても貴重で忘れがたい5日間となりました。

実習を通して裏側を知ると、博物館に行くのが格段に楽しくなります。私は留学先のスペインで美術館を訪れた際、日本との共通点や相違点を見つけては喜んでいました。一風変わった博物館体験を得るきっかけ・またとない経験の一つとして、学芸員を目指す人にもそうでない人にも履修をお勧めします。

ひとがものを書くのは、
今の自分とは違う者
＊になるためだ。＊

＊ ＊ ＊ ＊ ＊
＊ ＊ ＊
＊

ミシェル・フーコー

卒業論文

大学とは、いまだ解決されざる問題に取り組む研究者たちが集まった、研究の現場にほかなりません。学生もまたその現場のただなかで、自分自身で研究課題を設定し、自分自身の力でまだ誰も知らなかったその解決を見つけ出して、卒業していきます。その成果こそ、卒業論文です。

＊ ＊ ＊ ＊ ＊
＊ ＊ ＊
＊



兼信遥里「イングランド人のアイデンティティ形成 ーイネ王の法典に着目してー」

岡山県立倉敷青陵高等学校出身。
平成26年度、文学部人文学科歴史文化学専修コース(現・西洋史学領域)を卒業。
現在は、株式会社JTB中国四国 広島支店に勤務。

イギリスに留学し、イギリスの風土や文化に惹かれた私は、イングランド人が初期中世においてどのようにしてイングランド人としてのアイデンティティを持つようになったのかを卒業論文のテーマに選びました。

このアイデンティティというテーマは、現代社会にも深く関わっています。国民国家である現代において、国家内部に住む全住民をひとつのまとまった構成員としてみている私たちは、自分たち自身がどのようにして形成されたのか、どのような価値観を持っているのかを考える機会が乏しいように感じます。どのような道を辿るべきかを迷った時、自分たち自身のことを知ることで糸口が見つかるかもしれません。過去ー歴史ーから学び、将来を考えることができるのです。卒業論文で膨大な書籍を読み、このテーマについて学んだことは、中世のイングランド人のアイデンティティに留まらず、現代世界を見る際にも活かされています。



中濱奈美「唐代の登覧詩」

岡山県立岡山朝日高等学校出身。
平成28年度、言語文化学専修コース(現・中国言語文化学領域)を卒業。
現在は、岡山県公立学校教員として県立高梁高等学校に勤務。

「登覧詩」とは高楼や高台に登って周囲を俯瞰して作った詩です。現在でも高所からの眺めを楽しむことは私たちにとってごく一般的なものとなっていますが、こうした行動は中国では古く『詩経』の時代からおこなわれ、詩作のテーマの一つとなっていました。このような登覧が、多くの詩人が活躍する唐代を通してどのように詩に詠まれていたのかに興味を持ち、その変容を研究しました。

研究方法としては、時代ごとに登覧詩を収集し、そこに詠まれる風景や感情を分類しました。膨大な数の詩を研究していく中で、その傾向や特徴に気付いた時には発見の喜びを感じました。研究を通して、登覧詩の時代ごとの特徴の変化のみならず、詩人の性格の反映による変化までも捉えることができました。はるか唐代に成立した文学に投影された詩人の思いを、現在に迫ってくるように実感できた、文学の面白さを感じる研究でした。



松浦八重子「ジョルジュ・サンドの芸術観 ーショパン、ドラクロワとの交流とその影響」

岡山県立岡山一宮高等学校出身。
平成28年度、文学部人文学科言語文化学専修コース(現・フランス言語文化学領域)を卒業。
現在は、岡山労働局に勤務。

ジョルジュ・サンドは、フレデリック・ショパンの恋人として有名ですが、画家のウジェーヌ・ドラクロワの友人でもあります。皆さん、「青い音」« la note bleue »とはどんな音だと思いますか? これはショパンの奏でるピアノの音をサンドが描写した言葉です。卒業論文では、サンドとショパンとドラクロワの交流がサンドの創作にどんな影響を与えたか、サンドの小説やエッセイ、書簡等を分析しました。サンドの作品には、ショパンの音楽観、ドラクロワの芸術観や色彩論が、サンドの言葉で語られています。また、小説『コンシュエロ』のアルベルトなど、ショパンがモデルと思われる人物が登場します。

サンドのエッセイは邦訳のないものもあり、原書を読むのは大変でした。ショパンについて調べてからサンドの小説を読むと、当時の民族主義の高まりとの関連など、より深くサンドの作品を読み解くことができたように思います。

1



岡山大学文学部では、授業のほかにも、日々研究が積み重ねられ、人間や社会に関する現在も未解決の問題に新たな知見をもたらしています。それらの重要な知見を、これまで論文や著書のみならず、一般公開の研究会や講演会、シンポジウム、映画上映会などのイベントを通して、広く公表してきました。講演会シリーズ「岡大文学部発：世界の街歩き」「ニホンガク最前線」「教科書からひろがる〈知〉の世界」、あるいは貧困・介護・ジェンダーなどをテーマとする複数のプロジェクト研究の公開ワークショップ、学生の企画した講演会などが、今後も開かれていく予定です。チラシや岡山大学文学部ウェブサイトをチェックしてみてください。

幸いにも多くの高校生の参加があった第5回の「岡大文学部発：世界の街歩き」と「文学部公開講座」に登壇した松村先生と松本先生に、学問のお話を伺ってみましょう。高校までとはひと味違う、大学の雰囲気を感じ取れるはずです。

*



松村圭一郎

地理学・社会学・文化人類学・社会文化学分野：文化人類学

—文化人類学がご専門の松村先生は、エチオピアで研究を続けてこられたと聞きましたが、経緯を教えてください。

大学に入ってから文化人類学という学問を知りました。島根の漁村や沖縄の離島などでフィールドワークを経験して、等身大の自分が感じ、考えたことが学問になることに興奮を覚えました。指導教員がエチオピアの専門家だったこともあり、3年生を終えたあと1年休学してエチオピアに行ったのが最初です。そのとき調査をした村に、いまでも通いつづけています。

—高校生に対してアピールできる、文化人類学の魅力とはどのようなものになるのでしょうか？

自分自身もそうでしたが、高校生までは自分の知っている情報だけがこの世界のすべてだと思っていたところがあります。でも、文化人類学のフィールドワークを経験すると、たとえそれが日本の身近な場所であっても、自分がいかに限られた小さな世界で生きてきたかを思い知らされます。世の中にどこか違和感を覚えている人にとって、文化人類学には視野を大きく広げ、物事の観方／感じ方を大きく変えてくれる力があります。それは、自分の生きている世界が一新するような経験だと思います。



松本直子

歴史学・考古学分野：考古学

—考古学という領域について簡単に教えてください。

考古学は、遺跡や遺物などの物質的証拠に基づいて人類の歴史を研究する学問です。文字が発明される前の先史時代の社会や文化を明らかにするのは考古学の専売特許ですが、中世や近世についても、遺跡・遺物から研究すれば考古学になります。

—高校生に対してアピールできる、考古学の魅力とはどのようなものになるのでしょうか？

数千年、数百年も昔の人が作ったモノや生活した痕跡に直接触れるのは、とてもエキサイティングです。言葉を持たない土器や石器から、それを作った人々の心や社会構造などをいかにして読み解くかも、難しいけれども面白いところです。



岡山大学文学部までの交通案内

1. JR岡山駅西口から岡電バス

「岡山理科大学」行き乗車、「岡大西門」下車。約10分。

2. JR岡山駅東口から岡電バス

「岡山大学・妙善寺」行き乗車、「岡大西門」下車。約30分。

*この路線は市内を廻るため時間がかかります。

3. JR法界院駅から徒歩で約10分。

4. JR岡山駅西口からタクシーで約7分。